

『『こころざし』をもった子供が育つ学校』の推進に関する研究

教職研修部 長期研修員

第1章 研究構想

1 研究の主旨

本県では、「未来をひらく『意味ある人』づくり」を目指し、学校・家庭・地域社会が相互にかかわり、連携した教育を積極的に推進している。そうした中、その中核を担う学校には、「自分らしさ」に気付き、社会とのかかわりの中で、自らの目標に向かって主体的に努力することができる「こころざし」をもった子供を育てることが求められている。

「こころざし」をもった子供が育つ学校は、家庭・地域と信頼し合い、分かち合いながら、「頼もしい先生」が一人一人の子供たちに「確かな学力」と「豊かな人間性」をはぐくむ教育活動を展開していくことにより実現できると考えた。

そこで、研究主題を「『こころざし』をもった子供が育つ学校」とし、学校経営における課題を探り、個人研究を進めた。

2 研究の方法

- (1) 研修員の所属地区の学校・家庭・地域社会の実情を把握し、今日的課題を明確にした。
- (2) (1)で挙げられた課題を解決するため、「『こころざし』をもった子供」「心の教育」「確かな学力」「教職員の資質能力」「開かれた学校づくり」をキーワードに基礎研究を進め、これからの学校の在り方について共通理解を図った。
- (3) 「こころざし」をもった子供が育つ学校づくりを目指し、各自が個人研究テーマを設定し、個人研究を通して課題解決のための具体策を探った。

3 研究の経過

月	研究内容	月	研究内容
4	・自校の教育課題や、県内各地の小・中学校の現状把握	8	・個人研究の推進（骨子作成・アンケート調査・内容の検討）
5	・学校経営研究の基礎研究（課題設定・レポート作成・報告・討論・まとめ）	10	・研究中間報告会の実施
6	・県立袋井養護学校での体験研修	11	・県内外の実践校視察研修
	・基礎研究発表会の実施	12	・研究のまとめ
7	・個人研究テーマの設定	1	個人研究原稿作成
		2	・研究報告会準備
		3	・研究報告会の実施

4 研究の概要

研究主題：「こころざし」をもった子供が育つ学校

大草 満	村越 重男	三浦 理恵	小林香代子	速水 徹
校育「 の成確 連すか 携るな の小学 在・力 り中」 方学を	の効少 方果人 策と数 推指 進導 のの た教 め育	導を扱主 の育す体 在成る的 り方力に 方進能進 路路・路 指度選	りめ教 方る師 （校の 小学授 校業 ）力 のを 在高	題く「 とり開 今か 後推 の進 在上 りの 方校 課づ

「こころざし」をもった子供

確かな学力

豊かな人間性

頼もしい先生

開かれた学校

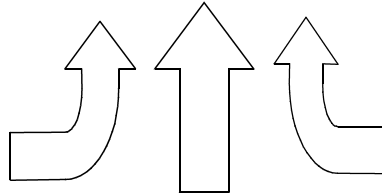
生涯学習社会を生きる力

家庭 学校 地域社会

三者の協働体制

〔国〕

- ・臨時教育審議会答申
- ・中央教育審議会答申
- ・各種答申
- ・21世紀教育新生プラン
- ・2002「学びのすすめ」



〔静岡県〕

- ・静岡県教育計画
- 「人づくり」2010プラン
- ・未来をひらく子供
- ・魅力ある授業づくり支援冊子

子供の現状

- 国際交流に対する積極性
- 情報化社会への適応能力
- 社会参加や社会貢献に対する意欲
- △社会性や対人関係能力の不足
- △望ましい生活習慣や倫理観の不足
- △子供を取り巻く環境の悪化（ゆとりのない生活、有害情報の波、体験の不足）

家庭の現状

- 家庭中心のライフスタイル
- 父親の子育て参加
- △核家族化、少子化の進行
- △家庭の教育力の低下

学校の現状

- 信頼される学校づくりの推進
- 学校裁量権限の拡大
- △児童生徒、教職員の多忙化
- △教職員の意識改革の不足

地域社会の現状

- 地域活動への参加者の増加
- △地域社会の教育力の低下
- △大人の規範意識の低下
- △人間関係の希薄化

時代の潮流

- 地域社会の一員として考え、行動する時代
- 人と科学技術の新しい関係をひらく時代
- 少子・高齢社会を共に支え合い、生きる時代
- 多様性を認め合い、互いに尊重し合う時代
- 生涯にわたる学びを通して社会とかがわる時代